

平成28年度 綾瀬市立 綾瀬中学校 学校関係者評価報告書(様式)

綾瀬市教育委員会の基本方針		(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
学校教育目標		学校経営の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって学習する人 ・相手の気持ちがわかる心やさしい人 ・困難をのりこえてやりとげる人 ・心と身体の健康な人 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 同僚性(助け合い、励まし合う仕事の仲間)を構築し、全職員が一体化した迅速な指導・支援に努める。 2) 「わかる授業」「意欲を育む授業」の追求のための校内研究の推進に努める。 3) 個々の教育的ニーズに対応するための支援教育の充実に努める。 4) 生徒の学校生活を充実させるため部活動を全職員が協力して支援することに努める。
今年度の重点目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1 自ら学び、自ら考える生徒を育てる 2 自他を大切に作る気持ちを育てる 		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒の約8割、保護者の約7割が肯定的回答でした。教職員は9割が「工夫改善をしている」と答えています。校内研究を軸に、グループ学習や言語活動を取り入れた授業実践等に努めたことが、生徒の意欲や職員の意識向上につながっていると思われます。少人数授業や放課後の学習室の取組などで、一人ひとりの課題の克服にも力を入れてきた成果も考えられます。ただし、家庭学習への取り組みせ方は、さらに工夫や改善が必要だと思われます。今後も教師の指導力を研鑽し、さらなる授業の工夫改善に努めるとともに、家庭学習の充実を図っていきます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	8割を超える生徒が「積極的に参加している」と回答しています。体育祭や合唱祭への取組をみてもその様子が窺えます。生徒の主体性を重視し、全職員が協働して指導にあたった成果と思われます。行事を参観する保護者の数も多く、生徒の様子や学校の取組に対する理解も深まっていると思われます。今後も生徒活動の様々な場面において、生徒一人ひとりの主体的な活動を大切に、自己有能感や達成感を味わえるような活動の支援を心がけ取り組んでいきます。
3 児童・生徒指導	学校は「相手の気持ちがわかる心やさしい人」を育てる指導を積極的に行っている。	9割の生徒・保護者が「思いやりの気持ちをもって接している」と回答しています。一方、9割を越えるの教職員が「良好な人間関係づくり」に努めていると答えています。本校生徒の素直で心やさしい資質は、教職員、生徒、保護者の人間関係にも支えられていると考えられます。また、PTAあいさつ運動など、保護者の協力体制も大きな支えになっています。今後も生徒との良好な人間関係づくりを意識し、道徳や日頃のさまざまな指導に努め、生徒の素直で心優しい資質を伸ばしていきます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	8割を超える生徒が「学校生活が楽しい」と回答していて、学校生活にほぼ満足している様子が見てとれます。学校行事や部活動の充実が満足感や自信につながっていると思われます。また、生徒一人ひとりのさまざまな課題に丁寧に対応した成果とも考えられます。一方、否定的回答をしている生徒もまだおり、人間関係や学習面などさまざまな困難に課題や不安を抱えていることがうかがえます。今後も月末のスクールアンケートや学級集団アセスメント、教育相談等有効な取り組みを継続し、生徒理解に努めるとともに、いじめの早期発見や再発防止の取り組みを徹底し、生徒が安心して楽しいと実感できるような学校生活の支援の工夫をしていきます。

5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	ほとんどの教職員がいじめの早期発見・再発防止に「努めている」と答えているのに対し、保護者の肯定的回答は約5割でした。昨年度の72%から51%へと肯定的回答が減ったことは、さらに改善をしていく必要があると考えられます。今後も、全職員でいじめの早期発見・再発防止の取組を徹底するとともに、事後の指導や見守りの取組を大切に、家庭との丁寧な連携を心がけ、生徒の思いやりの心を育み、一人ひとりが大切にされる学校・学級づくりを目指した指導に努めていきます。
6 保健管理	学校は「心と身体の健康な人」を育てる指導積極的に取り組んでいる。	8割を超える生徒が、健康や体力に関心を持って生活していることがわかります。一方、教職員の肯定的な回答が多いのも、生徒の姿に反映されているのではと考えられます。今後も、さらに日常のきめ細かい支援と、委員会活動を活性化させ、生徒が健康に学校生活を過ごせるよう、現在の取組を一層充実していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	アンケートの結果から、本校では安全を意識した教育活動が実践されていることがわかります。また、同様に施設の点検・整備にも努めていることがわかります。さまざまな場面において、非常事態を想定し、生徒の安全確保に対する問題意識が高まった成果とされます。今後も、地震・天候災害・津波の三つを中心とした防災教育を計画的に実施し、災害への意識を高めるとともに、定期的な施設の点検・整備により、生徒の安全に努めていきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	7割の教職員が支援の工夫をしていると答えていますが、生徒一人ひとりのニーズにもっと答えられるのではないかと模索している職員も少なくはありません。今後も、生徒それぞれの課題や教育的ニーズに応じた支援が強化できるように、全教職員の共通理解のもと、校内の個別支援体制の整備に努めていきます。さらに、保護者との信頼関係を築きながら、教育相談関係機関とも連携し、より充実した生徒支援に取り組んでいきます。
9 組織運営	学校は、校長を中心とした運営組織になっている。	82%が肯定的評価をしているものの、昨年度の91%からは減少しました。職員の入れ替わりもあり、それぞれの取り組みに細かな確認やこれまでの流れの説明などが、さらに必要になってきたと考えられます。今後も、学校運営組織がより機能するよう建設的に評価・見直しを行うとともに、連携・協働してグループの業務を遂行できるよう教職員の意識向上を図っていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	教職員の校内研究への取り組みに対する意識は、昨年度とほぼ同じ割合となっていますが、「そう思う」の数は減少しています。昨年度、校内研究の指定研究発表を終え、その翌年であるということや、本年度から新たに加わった教員の数が多く昨年度までの取組がまだ浸透しきれていなかった影響が考えられます。今後も、校内研究推進委員会を中心に、授業改善に継続的に取り組み、教師一人ひとりの力量を高めていきます。すべての教員が、日々の授業の中で、指導力向上・授業改善への意識をもった取り組みをさらに行っていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の育成のための工夫をしている。	教職員の8割が、学校教育目標・指導の重点を意識した教育活動をしているのに対し、目標や重点を知っている保護者は5割強に留まっています。保護者への周知は数字上は昨年度よりやや進みましたが、まだまだ不十分と思われます。今後は学校教育目標・指導の重点の周知のための新たな取組を工夫し、本校の教育についての理解をいただき、保護者・地域と連携して子供たちを育てる基盤を築くよう努めていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の肯定的回答が67%で、昨年度よりやや増加しました。しかし、教職員の回答とはまだ大きな差があるといえます。学校通信などによる、紙面による情報が家庭まで届いていないこともあるようです。今後も、保護者にとって必要な情報を適時に発信したり、懇談会や保護者全体会等を通して生徒の様子や課題などを伝えたりして、学校の情報が届くよう努めていきます。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- ・学習に対する意欲について、約8割を超える生徒が肯定的回答をしているのは評価できる。家庭学習については、学年として取り組んだり、学校としての体制を作ったりして充実を目指してほしい。
- ・8割を超える生徒が学級活動や学校行事、部活動に積極的に参加しているのは評価できる。部活動で学ぶことも多く、生徒の精神的な成長にもつながっている。今後も継続してほしい。
- ・ほとんどの生徒が思いやりの気持ちをもって人に接しているのは評価できる。大きな声でのあいさつは気持ちが良い。今後さらに個々の生徒の実態に応じた指導を継続してほしい。
- ・いじめ防止に向けた様々な取組を行っていることは評価できるが、保護者の肯定的な回答が昨年度より減少したことを見ると、学校での取り組みが保護者には十分に伝わっていないと思われる。さらに保護者と連携して取り組んでほしい。
- ・授業を参観して授業改善に取り組んでいる様子がよくわかった。また、楽しくもあった。多くの保護者にこのような思いを持ってもらうよう工夫するとよい。
- ・校内研究を継続して積極的に行っていることは評価できる。取り組みが学校教育目標や指導の重点に反映されるよう、PDCAサイクルのA（アクション）を忘れずに続けてほしい。
- ・PTA活動は行ってみると楽しいもの。学校と家庭の連携を図り、信頼関係を築くよい機会である。学校の取り組みや成果についてPTAを通して伝えていくとよい。